



114
A2651
3

民法第三卷目錄

財產編

財產所有ノ權ヲ得ル方法

家督相續

遺言ノ家督相續

分家合家

行衛知レサル者

贈遺總規則

大正
十一年
四月
一日

大正

即時ノ贈遺
預約ノ贈遺
遺言ノ贈遺

民法第三卷

財産編

財産所有ノ權ヲ得ル方法

七二一

第二百八十六條 財産所有ノ權ハ家督相續分
家合家又ハ人ヨリ贈遺ヲ受又ハ義務ヲ効ニ
回リテ之ヲ得ヘシ

七二二

第二百八十七條 本ニ回テ支ヲ併スノ權又ハ
連合物ヲ得ルノ權及ヒ三十年未石有ノ權ニ



七一三

曰ノ亦所有ノ權ヲ得可シ

第二百八十八條 所有者ナキ財産ハ政府ニ屬ス可シ

七一四

第二百八十九條 衆庶相共ニ用フ可キ物件ア

山野河海道
路橋梁ノ類此財産ヲ用フルノ方法ハ他方

取締ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

七一五

第二百九十條 打魚狩獵海藻ヲ取ル等ノ事モ

前條ニ同シ

七一六

第二百九十一條 官私地内ニ於テ埋藏財貨ヲ

見出シタル者ハ必ス官ニ訴ヘ出ヘシ其財貨

ノ所有者分明ナル者ハ一半ヲ所有者ニ給シ

一半ヲ地主ト見出シタル者トニ給ス所有者

ノ知ルサル時ハ一半ヲ地主ニ給シ一半ヲ見

出シタル者ニ給ス

七一七

第二百九十二條 性質及ビ種類ノ如何ナルヲ

問ハス海中ニ投ケ入レ或ハ海岸ニ打上ケシ

太政官

物品ヲ得ルノ權ハ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定
遺失品ヲ拾ヒ取リシ者モ亦同シ

家督相續

第二百九十三條 當主隱居シ或ハ死去シ或ハ
行衛知レズ或ハ終身懲役ニ處セラレ或ハ沼
産ノ禁ヲ受ル時ハ家督相續スヘシ

第二百九十四條 家督相續スル者ハ嫡男タル

ハシ若シ嫡男相續セサル時ハ嫡孫タルハシ
嫡孫ナキハ嫡出ノ二三男タルハシ嫡出ノ
男子ナキ時ハ庶子庶孫各長幼ノ順序ヲ以テ
相續スヘシ

第二百九十五條 止ムヲ得サルノ事故アル時
ハ戸主ノ存意ヲ以テ前條ノ順序ニ拘ラス親
族會議ノ上相續人ヲ定ムルヲ得ヘシ

第二百九十六條 凡定リタル規則ヲ変シテ家

督相續人ヲ定ムル時ハ之ヲ為ス者ノ精神昏
情セサルヲ必要トス

第二百九十七條 凡親族會議ニ與ル者ハ必ス
近親タルヘシ若シ近親ナキ時ハ遠親之ニ與
ルヲ得ヘシ

若シ近親遠隔ノ地ニ在ル時ハ其由ヲ申シ送
リ承諾ヲ得ヘシ

第二百九十八條 若シ會議ニ與ルヘキ親族少

ク或ハ無キ片ハ身上ノ證地請人店類及ヒ比隣
ノ者五人組之ニ代ルヘシ

第二百九十九條 本系ニ相續ス可キ者無キ時
ハ親族會議ノ上旁系并姻族中ノ親ヲ選テ養
子ト為スヲ得ヘシ

第三百條 高祖ヨリ玄孫ニ至ル者ヲ本系ト云
ヒ其系直ナラスシテ所出ノ同シキニ因テ相
連ナル伯叔父母兄弟姉妹ノ類ヲ旁系ト云ヒ

高祖以下妻ノ親族ヲ姻族ト云フ

本系旁系姻族ニ分テ尊屬卑屬ノ二トス

尊屬ハ本系ニ於テハ父祖以上ノ直系ヲ云ヒ

旁系ニ於テハ兄弟以上ヲ云フ卑屬ハ本系ニ

於テハ子孫以下ノ直系ヲ云ヒ旁系ニ於テハ

弟妹以下ノ親ヲ云フ姻族モ之ニ准ス

第三百一條 庶子庶孫ナキ時ハ私生ノ子孫ヲ認メテ家督相續セシムルヲ得ヘシ

第三百二條 姦通及ヒ乱倫ノ子ハ親子互ニ認

ルヲ得スト姦氏父母常刑ニ處セラレシ後

ハ養育ヲ受ケシ又父母ノ家督相續人ナキ時

私生ノ子ニ準シ其相續人タルヲ妨ナシ

第三百三條 男子無キ時ハ女子家督相續スル

ヲ得ヘシ

第三百四條 女子家督相續ノ後ニ夫ヲ迎ヘル

時ハ其夫相續人タルヲ得ヘシ

第三百五條 止ムヲ得サル事故アル時ハ親族
會議ノ上嫡男ヲ分家シ或ハ養子ニ遣シ二三
男ニ本家相續セシメ或ハ實子ヲ分家シテ養
子ヲ以テ相續セシムルヲ得ヘシ

第三百六條 家督相續スヘキ子幼年ナルニ付
養子ヲ為ス者預メ其幼年ノ子ヲ養子ノ順養
子ニ定ルコトヲ得ス但シ後年ニ至リ養子ノ存
意ヲ以テ其幼弟ヲ養子ニ為コト妨ヤシ

第三百七條 左ノ三件ノ者并ニ其子孫及ヒ配
偶者ハ其戸主ノ相續人タルコトヲ得ス

戸主ヲ謀殺傷スル 首ハ勿論從ニシテ未タ
行ハスト雖モ其刑ヲ受ケシ者
戸主ヲ死刑ニ處ス可キ讒訴ヲ為シタル者
戸主ヲ殺害シタル者ヲ知テ其事ヲ訴サレ
丁年ノ者

第三百八條 戸主ヲ殺害シタル者ノ子孫及ヒ

配偶者ヲ除クノ外其他ノ親族ハ其殺害ノ
ヲ許ヘサルニヨリ其相續人タルノ差支トナ
ルコトナシ

第三百九條 士族以上ノ家督相續人罪アリ族
ヲ除カルキハ其家ヲ相續スルコトヲ得ス別ニ
相續人ヲ立ツヘシ

第三百十條 夫死シテ相續人ナキハ寡婦其家
ノ血屬ナルト血屬ナラサルトニ限ラス親族

會議ノ上相續人タルコトヲ得ヘシ

第三百十一條 嫡男タリト雖正ヲ得サル情
實アリテ相續スルコトヲ辭スル時ハ親族會議
ノ上之ヲ許スコトヲ得ヘシ

第三百十二條 相當ノ相續スヘキ者ヲ廢シ別
ニ相續人ヲ定ムル時ハ親族連印ノ証書ヲ以
テ戸長ヘ届クヘシ

第三百十三條 戸主子ナクシテ相續人ヲ定メ

ス死去スル時ハ親族會議ノ上相續人ヲ定メ
戸長ハ届クヘシ

第三百十四條 家督相續スヘキ者海外行或ハ
行方知レサル内ニ戸主死去スル其財産ヲ親
族ニテ預リ置ヘシ

第三百十五條 親族ニテ預リ置財産ハ其目錄
及ビ出納算計書ヲ作ルヘシ
若シ其財産中ニ損敗ス可キ物品アラハ之ヲ

賣拂ヒ其代金ヲ預リ置クヘシ

第三百十六條 若シ親族ナキ時ハ檢部立令戸
長ニテ預リ置キ財産目錄書ヲ裁判所ニ出シ
置キ其出納算計書ヲ作り且損敗スル物品ヲ
賣拂フ等ノ方法ハ前條ニ同シ

第三百十七條 懲役懲治場ニ入ル者ノ父祖死
去シテ其者ノ外ニ相續人無キキハ入場中其
財産ヲ前條ノ如ク親族又ハ戸長ニ預リ置ク

ハシ

第三百十八條 家族無キ當主ノ懲役懲治場ニ
入ル者ニ前條ニ同シ

第三百十九條 家督相續人ナキ時ハ其財産ヲ
所在ノ戸長ニ收入スヘシ

若シ其家ニ負債アルキハ其財産ヲ賣拂之
テ償フ可シ負債其財産ニ過ルキハ割合ヲ以
テ各債主ニ分配スヘシ

若シ其家ニ老者篤疾及ヒ治産ノ禁ヲ受シ者
アル時ハ其者ニ養料ヲ給スヘシ

第三百二十條 相續人無キ財産ヲ戸長ニ收入
スル時ハ其所在裁判所ノ許ヲ受ヘシ

第三百二十一條 家督相續スル者ハ其家ノ財
産ヲ全ク所有スルヲ得ヘシ

第三百二十二條 家督ノ節隱居料ヲ分テ或ハ
二三男ヲ分家セシメ又ハ他人ニ贈遺スト雖

氏全家財産ノ三分ノ一ニ過ク可ラス其三分
ノ二ハ必ス家督相續スル者ノ所有タルヘシ
第三百二十三條 隠居料トシテ父祖ニ分チテ
ル財産ハ動産不動産ニ拘ハラス其父祖死ス
ル時ハ之ヲ當主ニ歸スヘシ但シ其父祖別ニ
隠居料ノ相續人ヲ定メタルハ分家トモ視
スヘシ

第三百二十四條 家督相續スル者ハ其家族ヲ

養育シ負債ヲ引受ケ祖先ノ祭祀ヲ奉スルノ
義務アリトス

第三百二十五條 家督相續ノ節財産保護及ヒ
後未ノ争論ヲ拒メ為メ財産及ヒ負債ノ目錄
ヲ作り親族コレニ加印シ其所在裁判所ノ簿
冊ニ記シ置キテ願ヒ出ルヲ得可シ
分家トナリタル者及ヒ贈遺ヲ受クル者モ同
様ノ手續ヲ為スヲ得ヘシ

所在裁判所ニ財産保護帳ヲ設ケ置書記官其
目錄及本人親族ノ名ヲ記シ之ニ証印セシム
ヘシ本人其寫ヲ乞フ時ハ本帳ニ割印シテ渡
スヘシ定法ノ筆墨料ヲ納メシムヘシ

第三百二十六條 養子ニテ家督相續シタル者
實子無シテ其養子ヲ選ル時ハ先ツ其家ノ旁
系ノ親ヲ立ヘシ旁系ノ親ナキ時ハ所出ノ親
姻族ノ親及ヒ他人ヲ選ルヘシ但シ止ムヲ得

サル事故アリテ此順序ニ回ラサルキハ親族
ノ會議ヲ以テ定ムヘシ

遺言ノ家督相續

第三百二十七條 實子孫及ヒ養子無キ者旅行
出兵ノ節直ニ相續人ヲ定メ難キ事故アルキ
ハ秘密遺言ノ証書ヲ作リ預メ家督相續人ヲ
定メ置テ得ヘシ但シ帰郷ノ後ハ之ヲ取消
ス可シ

第三百二十八條 秘密ノ証書ハ自筆ニテモ代

筆ニテモ必ス調印シラ之ヲ封シ置クヘシ

第三百二十九條 實子孫及ヒ養子無キ者末期

ニ至リ遺言ニテ家督相續人ヲ定ムルヲ得

可シ

第三百三十條 右遺言ノ証書ハ自筆ニテモ代

筆ニテモ之ヲ記シ親族立會各調印スヘシ

第三百三十一條 遺言ニテ血屬ノ親ヲ徐キ他

人ヲ養子ト定ル時ハ必ス其事故ヲ詳記スヘ

シ

第三百三十二條 養子トナル者ノ近親ハ其會

議ニ関ルヘカラス

第三百三十三條 遺言ニテ養子ト定クル者若

シ其者承諾セサレハ親族會議ノ上別ニ家督

相續人ヲ定ムヘシ

第三百三十四條 遺言証書ト虽氏格別ニ條理

ノコアルキハ親族會議ノ上之ヲ改ムルヲ得ヘシ

第三百三十五條 左ノ者ノ遺言証書

右等ノ者ノ遺言証書ハ証人ヲ撰ミ立會ニテ

各調印スヘシ

旅行中ノ者

兵負又ハ隊中官吏役下ノ者

兵病院ニ入ル者

航海中ノ者

第三百三十六條 航海中ノ遺言証書ハ日本領

事官存留スル外國港ニ着スル時其証書ヲ証

人ヨリ領事官ニ渡スヘシ領事官之ヲ外務省

ニ送り其遺言者住處ノ裁判所ニ送達セシム

ヘシ

第三百三十七條 其船歸帆シタル時ハ其証書

ヲ便宜ニ從ヒ遺言者住所ノ裁判所ニ送達ス

へシ

第三百三十八條 遺言證書ヲ記スル時立會ノ

証人ハ日本人ニシテ丁年ノ男子タルヲ必

要トス

分家合家

第三百三十九條 凡子弟ヲ分家スル者本家財

産ノ三分ノ一ニ過クヘカラス

第三百四十條 分家スル者ハ二三男ノ順序ニ

從テ之ヲ為ヘシ但シ事故アリテ順序ニ從ハ

ス或ハ數子中ノ一子ノミヲ分家セシムル類

ハ親族會議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三百四十一條 分家スヘキ子孫アルハ假

令財産ヲ他人ニ贈與スト雖モ分家定分中ノ

三分一ニ過可ラス

第三百四十二條 若シ本家ノ父兄窮乏シテ自

ラ養フ能ハサルニ至ルキハ子弟ノ分家シタ

分家

ル者ヨリ養料ヲ贈リ或ハ引取養フヘシ但シ其家ノ負債ヲ償フニ及ハス

第三百四十三條 若シ本家ニ相續人絶ユルキハ分家ヨリ相續シ或ハ本支兩家ヲ合任スルヲ得ヘシ

第三百四十四條 右ノ外家族及ヒ他人ニ財産ヲ分テ別家セシメタル時ニ前數條ノ規則ニ從フヘシ

第三百四十五條 父或ハ夫ノ家督ヲ相續シタル女子或ハ寡婦他ノ一户主ト婚ヲ結フ時便宜ニ回リ夫妻各其戸主タルヲ得ヘク又兩戸ヲ合併シテ一家トスルヲ得ヘシ

此場合ニ於テハ其財産ヲ共通スルモ共通セサルモ亦其便宜ニ從フヘシ

第三百四十六條 遺言ニテ分家或ハ合家スル手續ハ總テ遺言ニテ家督相續人ヲ定ムル法

ニ同シ

第三百四十七條 遺言ニテ分家トナリタル者

ハ本家ノ負債其財産定分ヨリ多キ時ハ其財産ノ割合ヲ以テ其負債ヲ引受シムルヲ得ヘシ

但シ此場合ニ於テハ其財産及ヒ負債ノ目錄ヲ作り親族之ニ加印シ所在裁判所ノ簿冊ニ記シ置ヘシ

行衛知レサル者

第三百四十八條 行衛知レサル者アル時ハ其遺留財産支配ノタメ假ノ相續人ヲ定メ親族立會ノ上其財産目錄ヲ作り之ニ加印スヘシ

第三百四十九條 前條ノ届ヲナセシ時ヨリ二年ヲ過ヤレハ真ノ相續人ヲ定ムルヲ許サス

第三百五十條 若シ漂流等ノ天災ニ値ヒ歸来ル者ハ年限外ト雖モ相續人ニ對シ其財産取

大政官

大正官
成シノ訴ヲ為スヲ得ヘシ

第三百五十一條 若シ行衛知レサル者ニ對シ
訴ヲナスヘキトアラハ相續人ハ勿論假ノ相
續人ニ對シ其訴ヲ為スヲ得ヘシ

第三百五十二條 行衛知レサル者人ヨリ得ヘ
キ權利ノ確証アル時ハ年限中ハ假リノ相續
人之ヲ受取リ年限外ハ真ノ相續人之ヲ受取
ヘシ

第三百五十三條 漂流寺ニテ行衛知レサル者
相續人ノ定リシ上若シ歸來リ財産ヲ取戻ス
ト至死相續人ノ當然得タル入額ハ取戻スト
ヲ得ス

第三百五十四條 行衛知レサル者ノ妻ニ年ヲ
過レハ再婚スル事ヲ許ス

第三百五十五條 幼年ノ子ヲ遺留シテ其父行
衛知レサル時ハ其母其子ノ教育及ヒ財産ヲ

支配スルコトニ於テ又同様ノ權ヲ行フ事ヲ得
ヘシ若其時母既ニ死スルニ於テハ親屬會議
シテ後見人ヲ立ツヘシ

但シ前婚ノ連子継子モ同様タルヘシ

贈遺總規則

第三百五十六條 凡財産ヲ即時ノ贈遺預約ノ
贈遺遺言ノ贈遺トシテ人ニ與ルコトヲ得ヘシ
然レ其財産三分ノ一ニ過可ラサルコト隱居料

分家ノ規則ニ同シ

但シ其家ニ於テ養ヲ受ル者ニ與ル贈遺ハ六
分ノ一ニ過ヘカラス

第三百五十七條 即時ノ贈遺トハ贈遺者存生
中即時ニ自己ノ財産ヲ人ニ與ルヲ云フ

但シ此證書ハ後日ニ至リ廢棄スルコトヲ得ス

第三百五十八條 預約ノ贈遺トハ贈遺者存生
中將來ノコトヲ期シ又ハ死後ヲ期シテ自己ノ

大文

財産ヲ人ニ與フルヲ云フ

但シ此證書ハ後日ニ至リ廢棄スルコトヲ得ス

シ

第三百五十九條 遺言ノ贈遺トハ贈遺者末期

ニ至リ自己ノ財産ヲ人ニ與フルヲ云フ

但シ此證書格別不條理アルキハ親族會議ノ

上後日ニ至リ廢棄スルコトヲ得可シ

第三百六十條 允贈遺ヲ為スキ一人ニ財産入

額ノ所得ヲ與へ又一人ニ其財産所有ノ權ノ

ミヲ與フルコトヲ得ヘシ

第三百六十一條 允贈遺ノ約足ニ法律ヲ犯シ

及ヒ風儀ヲ害スルコトハ採用スヘカラス

第三百六十二條 法律上ニ於テ制禁ヲ受ケタ

ル者ノ外何人ニ限ラス贈遺トシテ人ニ財産

ヲ與へ又ハ之ヲ受ルコトヲ得可シ

第三百六十三條 十五歳以下ノ幼者ハ後見人

ノ許ヲ得スシテ自己ノ財産ヲ人ニ贈與スル
トヲ得ス

第三百六十四條 十六歳以上ノ幼者ハ遺言ノ
贈遺ヲ為スノ外同上ノ許シナクシテ其財産
ヲ人ニ與ルヲ得ス

第三百六十五條 人ノ妻タル者ハ遺言ノ贈遺
ヲ為スノ外其夫ノ許諾人ハ其地裁判所ノ允
許ヲ得ルニ非レハ財産ヲ人ニ贈與スルヲ得

得ス

第三百六十六條 凡贈遺ハ母ノ胎内ニアル者
ト雖_レ之ニ與ルヲ得_レシ然_レ其子死シテ
出産スル_レハ之ヲ取消ス_レシ

第三百六十七條 幼者既ニ丁年ニ至ルト_レ虽_レ

後見人財産ノ會計ヲ為シ終_リタル後ニ非_レ
ハ其後見人ニ財産ヲ贈與スルヲ得ス
但シ本系尊属ノ親後見人タル時ハ假令丁年

ニ至ラスト雖此例ニ拘ハル可ラス

九九

第三百六十八條 病者親族ノ許諾ナクシテ神

佛ニ寄附シ或ハ相當謝禮ノ外醫師僧尼巫祝

等ニ為シタル贈遺ハ之ヲ取消スヘシ

九〇

第三百六十九條 区内ノ教育所學校病院等ニ

財産ヲ與フルトハ官許ノ上之ヲ為スヘシ

九一六

第三百七十條 家督相續ス可キ者ナク且養子

ヲ為ササルキハ財産ノ全部ヲ親族ニ贈與ス

ルヲ得ヘシ親族無キハ姻族及ヒ他人ニ

贈與スルヲ得ヘシ

但シ其贈遺ヲ受クル者ハ其負債ヲ引受ヘシ

九三五

第三百七十一條 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ

者ニ為ス贈遺ハ其尊屬ノ親又ハ後見人ニ證

書ヲ渡シ其受取書ヲ取置クヘシ

九三九

第三百七十二條 不動産ヲ贈遺ト為シタル時

ハ讓リ渡シノ証書寫ヲ添テ雙方ヨリ其財産

九四三

所在ノ戸長ニ届ケ出ツヘシ
第三百七十三條 凡贈遺ハ現在所有ノ財産ニ
限ル可シ若シ契約書中ニ後日所有ト為ス
アル可キ財産ヲ記シタリト虽氏其證ナカル
可シ

九四九

第三百七十四條 財産ノ贈遺ヲ為ス者ハ其入
額所得ノ權ヲ已レニ保チ置クヲ得ヘシ
即時ノ贈遺

九三一

第三百七十五條 即時贈遺ノ證書ハ本人調印
スヘシ

九五三

第三百七十六條 即時ノ贈遺ト虽氏其贈遺ヲ
受タル者違約又ハ忘恩ノヲアルキハ之ヲ取
戻スヲ得ヘシ

九五四

第三百七十七條 違約ニ回テ贈遺ヲ取戻スキ
違約者其財産ヲ引當トシタル負債アラハ之
ヲ繰掃セシメテ取戻スヘシ又違約者ヨリ他

大正

人ニ贈與シタルギハ其者ヲシテ其人ヨリ取
戻サシムハシ若シ之ヲ賣拂ヒタルギハ違約
者ヨリ相當ノ償金ヲ取ルヘシ

第三百七十八條 忘思ニ曰テ贈遺ヲ取戻ス
ハ左ノ三件ニ曰ルヘシ

第一 贈遺ヲ受ケシ者贈遺者ヲ殺サン
謀リタル時

第二 贈遺ヲ受ケシ者贈遺者ニ對シ暴行

罪犯又ハ大ナル禍害ヲ為シタル時

第三 贈遺ヲ受ケシ者贈遺者ニ相當ノ養
料ヲ給スルヲ肯セサル時

第三百七十九條 前條第一第二ノ場合ニ於テ
贈遺取戻ノ訴ハ其害ヲ蒙リタルト述シ日又
ハ罪犯ヲ知り得タル日ヨリ一年ヲ過ルギハ
之ヲ為ス可カラズ

此訴ハ忘思者ノ家督相續人ニ對シテ之ヲ為

スヘカラス又贈遺者ノ家督相續人ヨリ忘恩
者ニ對シテ之ヲ為ス可カラス但シ贈遺者此
訴ヲ為シ未タ裁判ヲ歷サル内ニ死去シタル
片又ハ未タ訴ヲ為サスト蚤氏忘恩者罪犯ヲ
行ヒタルヨリ一年内ニ死去シタル時ハ贈遺
者ノ家督相續人ヨリ訴ヲ為ルヲ得ヘシ

預約ノ贈遺

第三百八十條 預約贈遺ノ手續ハ即時贈遺ノ

法ニ同シ但シ違約忘恩ノミニアラス天文人
事等ニ因リ贈遺者ノ為メ止ムヲ得サル事故
生スル時ハ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第三百八十一條 預約ノ贈遺ヲ受シ者ハ其證
書ヲ以テ負債ノ引當ト為スヘカラス

第三百八十二條 預約ノ贈遺ヲ受シ者贈遺者
ヨリ先ニ死シタル時ハ其証書ノ詮ナシトス
但シ死者ノ相續人ニ之ヲ與ンテ欲ル片ハ贈

遺者證書ヲ書改ムヘシ

第三百八十三條 預約ノ贈遺ト為シタル財産
未タ之ヲ與ヘサル内ニ滅盡シタルハ其約
消スヘシ

遺言ノ贈遺

第三百八十四條 凡遺言贈遺ノ手續ハ總テ遺
言ニテ分家合家スル法ニ同シ

第三百八十五條 遺言ノ贈遺ヲ受タル者贈遺

者ニ對シ違約忘恩等格別ノ不義理アルキハ
贈遺者ノ子孫又ハ親族ヨリ其由ヲ訴出シテ
其財産ヲ取戻スルヲ得ヘシ

第三百八十六條 一通ノ證書ヲ以テ各人ニ與
フル部分ヲ指定ノス数人ニ連帶シテ遺言ノ
贈遺ヲ為シタルキ若シ其中贈遺ヲ辭スル者
アラハ其部分ヲ其他ノ数人ニ分配スヘシ但
シ部分ヲ指定ノタルキト雖凡之ヲ毀壞セザ

